

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月31日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21530128

研究課題名（和文） 日本とドイツの対テロ戦争に関する防衛政策変更の比較

研究課題名（英文） Comparison of the post 9/11 defense policy of Germany and Japan

研究代表者

フォッセ ヴィルヘルム (VOSSE Wilhelm)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：70327732

研究成果の概要（和文）：本研究の総合的な目的は、主要な先進国において外交政策に関連する問題や価値観に関する態度や考え方の構造の理解を進めることである。このことにより、世論から幅広く支持を得ることができる長期的な外交政策や、直近の経済的・社会的・政治的・安全保障上の展開が世論に与えている影響の解明を試みる。本研究では、外交政策における制限が多い点において類似している日本とドイツに焦点を当て、ケーススタディによって分析する予定である。

研究成果の概要（英文）：The overall purpose of the proposed project is to gain a better understanding of the structure of attitudes and views concerning foreign policies related issues and value among major industrial democracies. The study attempts to identify common underlying values and attributes that eventually give us a better idea what kind of long-term foreign policy objectives receive support from the general public, and how recent developments in the economic, social, political, and security field have affected those preferences. The projected case studies for this project are Japan and Germany, which form an ideal case of comparison because of their many similarities concerning their respective foreign policy constraints.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：外交政策、防衛政策、世論調査、ドイツ

1. 研究開始当初の背景

日本とドイツの間には、第二次大戦後の外交・安全保障政策に関して類似性が見られる。敗戦および連合軍による占領を経て、両国は、将来にわたり戦争や暴力的紛争を起こさ

ないという非常に強固な信念を培い、また反軍国主義的な規範への志向性を養ってきた。しかしながら、9・11のテロ攻撃およびイラク戦争（2003年～）の後、日本とドイツの間には、対アメリカ関係について大きな違いが露呈したように思われる。ドイツは（フラン

スとともに)、イラク攻撃の決定を公然と批判したが、日本政府は、戦争期間中、とりわけ 2008、2009 年までの間、アメリカの極めて近い同盟国となり、それまで協力関係を発展させる障害となっていた多くのものが取り除かれた。

2. 研究の目的

(1) この研究プロジェクトの目的は、この違いが起こった主要な原因を分析すること、そして将来この違いが拡大するのか縮小するのかを問うことにある。それによって、日本が将来の外交・安全保障政策に関して異なった選択肢を選ぶ可能性とともに、この違いを生み出した個人的、国内的そして国際的な要因をより理解することが可能になると考えられた。

(2) プロジェクトの目的

- ① 外交政策行動に対する理解を深めること、とりわけ国内的要因および 9・11 後の変化が、将来の政治行動を予見するために重要である。
- ② 日本の国内的要因や外交問題および世界的な関心事への態度について研究する共同国際プログラムを構築すること。
- ③ 日本が軍事的役割を増大することに対する 2 つの主要な抑制要因、すなわち憲法 9 条と軍事的手段を使用することに対する世論の反対もしくは反軍国主義によって、日本政府がその軍事能力を増強することが阻止されるのか、あるいは、全般的な変化や安全保障上の脅威のグローバル化の認識、そして過去数十年にわたる政府の干渉主義的政策によって、この国民感情が弱まり、その結果、日本の外交・安全保障政策に関する国内的制約要因が縮小することになるのか。

3. 研究の方法

(1) クロス・ナショナル世論調査 (SAGE 2008)

- ① 日本とドイツでの郵送調査。このプロジェクトでは、大部分はドイツおよび日本のデータを使用するものの、近隣諸国の国内議論から生まれた要因を考慮することもある。
- ② 国際社会調査プログラム (ISSP)、世界価値観調査など、比較分析のデータ

(2) 文書分析

- ① 防衛白書、外交青書、日米安全保障条約の改定過程 (2001-2010) など

② 政府関係者および政治家の公式発言

(3) メディア分析

- ① 外交・安全保障政策に関する日本のメディアの分析 (継続中)
- ② ドイツのメディアの分析 (2001-2010)

(4) インタビュー

- ① 日本およびドイツの政治家、政府関係者、外交・安全保障の専門家へのインタビュー

4. 研究成果

世論調査、パブリック・ディスコースの分析および文書分析のおもな成果は以下のとおりである。

(1) 外交・安全保障政策問題に関する日本とドイツの議論は、強い反軍国主義的感覚のみならず、強い脅威認識によっても影響を受けている。

(2) 日本の自衛隊活動およびそれに対するパブリック・ディスコースは、アメリカへの忠誠心によって強く影響されていたが、独立した外交政策を展開したいという願望も見られた。自民党政権は、イラクやインド洋その他でのアメリカの活動に対する日本の支援の継続を行うことに賛成の議論を行っていたが、日本国民はそれが常に必要であるとは考えておらず、また関心も低かった。

(3) アメリカの作戦活動に対するドイツの活動とパブリック・ディスコースは、ドイツの歴史とホロコーストの記憶に強く影響されていた。ドイツ国民は、大規模な人権侵害が発生したり、ジェノサイドが疑われるような場合には、そうした活動をより支持する傾向にある。パブリック・ディスコースと議会での議論との関係に関する成果の詳細は、下記の出版物において解説されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① Wilhelm M. Vosse, Middle Power, Civilian Power, or New Power? Comparing Underlying Factors of the Security Policy in Japan and Germany, in: Journal of Social Science, No. 73 (forthcoming 9/2012)

- ② ヴィルヘルム・フォッセ, 「東アジア共同体構築に向けたヨーロッパの教訓」、国際比較政治学研究、2011、20(1)、pp. 54-68

[学会発表] (計5件)

- ① Wilhelm M. Vosse International Studies Association Asia Pacific Inaugural Conference “Regions, States and Peoples in a World of Many Worlds”, Brisbane, Australia, September 29-30, 2011, paper presented: “The Impact of Out-Of-Area Missions on Interregional Security Cooperation: The Case of Europe and Asia-Pacific” .
- ② ヴィルヘルム・フォッセ, 2010年度国際比較政治研究所・国際シンポジウム、テーマ: 現代の東アジア情勢を考える、「東アジア共同体構築に向けたヨーロッパの教」、2010年11月18日.
- ③ Wilhelm M. Vosse Twenty Years After the End of the Cold War, Aoyama Gakuin University International Symposium, Tokyo, December 5, 2009, Paper presented, “The Impact of the Cold War on German Political Culture in the 1970s and 1980s” .
- ④ Wilhelm M. Vosse Annual Conference of the International Studies Association, New York, USA, February 15-18, 2009, Paper presented: “Normalization or Europeanization of Japan” .
- ⑤ Wilhelm M. Vosse Ostasiatische Gesellschaft, (OAG), Tokyo, Lecture: “Wird Japan zum Großbritannien Asiens oder zum Deutschland Asiens? Beobachtungen zur außenpolitischen Entwicklung Japans im 21sten Jahrhundert” [in German] (Will Japan be the Britain or the Germany of Asia? Observations about Japanese foreign policy developments in the twenty-first century), Tokyo, June 3, 2009.

[図書] (計5件)

- ① Wilhelm M. Vosse, Reinhard Drifte and Verena Blechinger-Talcott (eds.) Governing Insecurity in Japan. The Domestic Discourse and Policy Response, Routledge, (forthcoming 2012) .

- ② Wilhelm M. Vosse, Comparing Japanese, Australian and European Responses to ‘out-of-area’ Security Challenges, in: William T. Tow and Rikki Kersten (eds.) Bilateral Perspectives on Regional Security. Australia, Japan, and the Asia-Pacific Region, Palgrave Macmillan, Houndsmill, Basingstoke, 2012, pp. 160-182.

- ③ Wilhelm M. Vosse, From Non-militarism to Pragmatism: Japan’s Public Opinion and the Political Reaction Concerning the Iraq War, in: Richard Sobel, Peter Furia, and Bethany Barrett (eds.), Public Opinion and International Intervention: Lessons from the Iraq War, Potomac Books, 2012, pp. 120-145.

- ④ Wilhelm M. Vosse, Herausgefordert durch Wirtschaftskrise und Naturkatastrophe: Japanische Außenpolitik 2010/2011 [Challenged by an Economic Crisis and a Natural Catastrophe: Japanese Foreign Policy 2010/2011], in: Wieczorek, Iris and David Chiavacci (eds.), Japan 2011, Deutsche Vereinigung für sozialwissenschaftliche Japanforschung Berlin, 2011, pp. 121-146.

- ⑤ ヴィルヘルム M. フォッセ 「日本はアジアの英国もしくはドイツとなるか?—日本外交・防衛政策における国内変化と将来の選択肢—」、ヴィルヘルム・フォッセ、下川雅嗣 (編)、「平和・安全・共生」の理論と政策提言に向けて、風行社 (2010/05)、pp. 115-133.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

フォッセ ヴィルヘルム (VOSSE Wilhelm)
国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号 : 70327732

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし